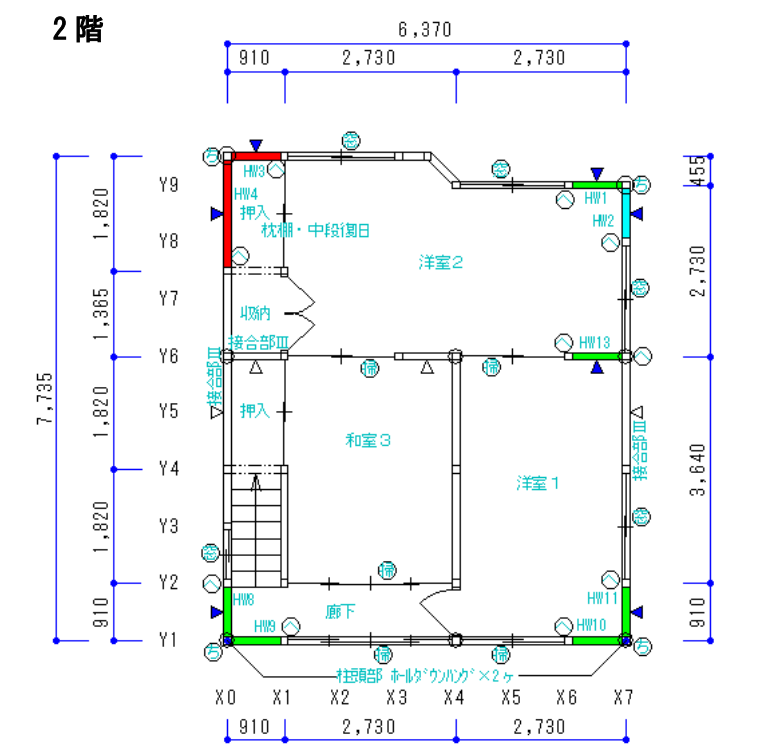
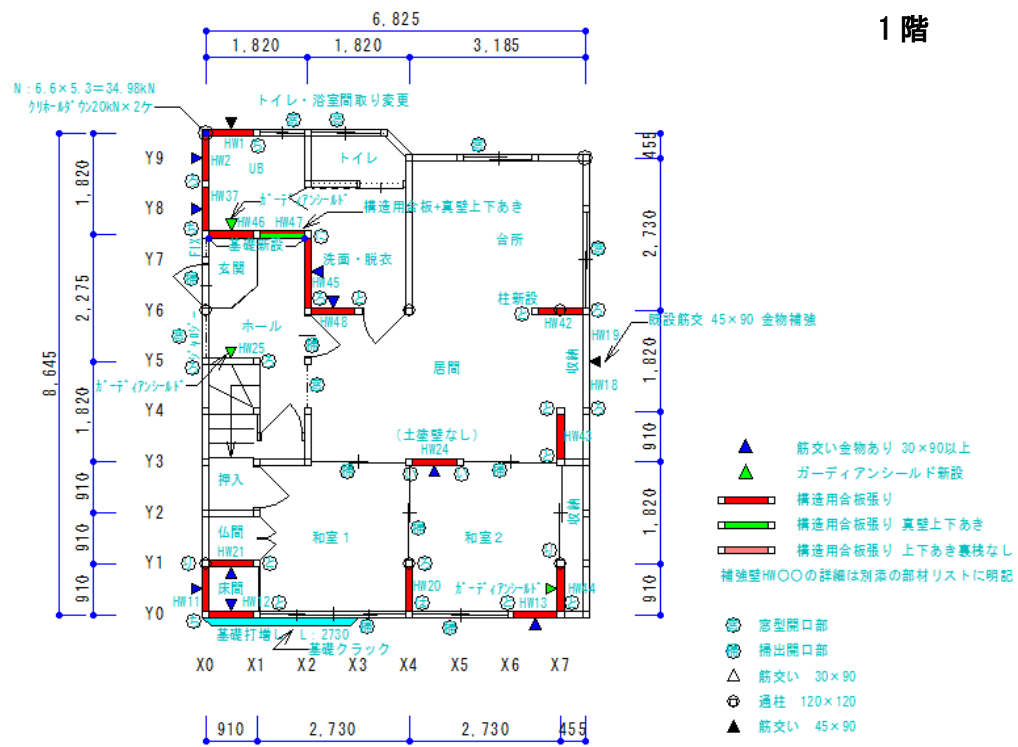


応募事例

【工法の種類】 ガーディアンシールド
部分開口 構造用合板 真壁上下あき

【応募者名】 U 建築



耐震診断値
改修前：0.20 改修後：1.00
工事費：182万円 工事期間：1ヶ月

昭和43年築の建物を中古で購入したご夫婦の事例です。使いづらかった浴室とトイレのリフォームを含めて耐震改修をしました。リフォームをする箇所で耐力壁の新設を行い、一石二鳥の補強としコストを抑えるようにしています。また2階の補強にあたっては、両端が通し柱の構面の柱接合部低減を緩和し（IV→Ⅲ）、補強箇所数が減るようにしています。一番の課題が前の持ち主が一部増築した際に東面の耐力壁を撤去してしまったものを、再度耐力壁とすることでした。あまり解体範囲が広がらないように工夫し、構造用合板と天井・床を解体せずに施工可能な筋交い（ガーディアンシールド）を使うことで対応しました。2012年に改定された診断法を適用した最初の物件で、改定版に対する理解が不足しており、今振り返ればまだまだ工夫が出来たのに、と思っています。



写真①②③は「真壁上下あき」補強のものです。天井・床を解体しなくても既設の筋交いの金物補強は可能ですが、③のように隅角部の土壁を壊さなければいけません。そこで土壁の評価は今年度より減災協で新たに評価対象となった「土壁上下あき」により評価しています。